

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

保護者と繋がる／社会福祉法人牧谷会 牧谷保育園

子どもたちの園での様子を、保護者にご覧いただく機会がありますか？
「楽しかった？」「友達と遊んだ？」と始まりがちな親子の会話は、園で子どもたちが夢中になっていることを保護者が知ることによって、もっと子どもに添った弾む会話になります。
この事例は、園生活を参観した保護者の記録です。ヨモギだんご作りの場面と、絵の具の混色の場面に参観したことで、保護者は子どもが感動体験や考えて活動を進める姿を見取っています。子どもの目線で見守り、保育を感じた保護者の記述から、子どもとの繋がりや保育園との繋がりが伝わってきます。



○ヨモギだんごと色合わせ～保護者の記録～／5歳児

今日はヨモギだんご作り。
まずは保育園の近くでヨモギの葉っぱを摘んできて、「さあ、作ろう！」…と、その前に先生から質問がひとつ。
先生：「白色と緑色を混ぜたら何色になるかな？」
園児：「黄緑！」「薄緑！」
やはり5歳児ともなると、理解している子どもたちがいる。
また、目の前にあるもち米とヨモギの話だと分かっているので、中には「えー、混ざらないよ！」という意見もある。
そして、何人かの子どもたちは「???」。まだ加色（混色）の概念が知識としてない者もいる。

じゃあ本当はどうなるか、やってみよう！

ヨモギをすり鉢ですって。
もち米を入れて、こねこね。
みるみる混ざっていく。
すると、「本当に混ざってる！」「黄緑になってきた！」と声が出る。
元のヨモギの葉ともち米と比べてみると、一目瞭然。
やりだす前まで半信半疑だった数名も、不思議そうではあるものの、納得した様子。
この後はそんな理屈はさておき、みんなで美味しくいただいた。

そして数か月後、今日は絵の具を混ぜて和紙を染めた。
最初はそれぞれ単色で染めていたものの、すぐにある園児が気付く。

「青色と黄色がくっ付いたところが緑色になってる！」
「わー、本当だ」
すぐに人だかりになった。そんな中、
「この前のヨモギだんごみたーい」の声。
ヨモギだんごの時は、緑+白=黄緑だけだったが、今日はいろいろな色がある。
「赤と黄色を混ぜたらオレンジになったよ！」
「青と赤は紫になった！」
「赤と白はピンクだ。かわいいー」

前はだんご作りだったこともあり、いまひとつ完全に理解できていなかった園児たちも、今日は絵の具の混ぜ合わせということで直感的に体感して理解・習得した模様。
それぞれが思い思いに色を合わせて、オリジナルの染め和紙を作った。





✿ 考察

普段目にしながらも、自生しているヨモギの葉を食用にするという体験、それを自分たちでこねて作り出す体験、その中で生ずる混色により原材料とは異なる色に変わる体験、それぞれが頭の中の知識としてはあったかもしれないが、実際に自分たちで行って、目の前で体験することで再度発見・確認できた。

さらに後日の色合わせを行う際、以前の経験と関連付けることでそれまでの知識から発展させ、新たな創造に繋がられることになる“気づき”を得たことは、他の事柄にも展開ができるいいステップになったと考える。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」